

DOWAS NEWS

2025

Vol.28 No.1



パラオに息づく 希望－海洋深層水と未来を紡ぐ旅－
海洋深層水利用学会事務局長 今田千秋… 1



海洋深層水利用学会

パラオに息づく希望 ― 海洋深層水と未来を紡ぐ旅**海洋深層水利用学会 事務局長 今田千秋****パラオの産業と海洋深層水の可能性**

南の島・パラオ。紺碧の海に抱かれたこの国は、観光と漁業を主要産業としながらも、食料自給率がわずか10～15%という課題を抱えています。そんな中、注目を集めているのが「海洋深層水」の活用です。パラオは、海洋深層水の特長、例えば、有用微生物の探索源、低温・清浄・ミネラル豊富であり農業や養殖業に活用でき、さらには再生可能エネルギー開発まで幅広い活用が可能であることに着目し、試験的に取水する予定です。JICA（国際協力機構）はこの海洋深層水を活かすプロジェクトを推進しており、沖縄・久米島で実績を上げた「久米島モデル」の展開先としてパラオを位置づけています。

**写真1 パラオの海洋深層水取水予定地**

2025年1月24日から29日、佐賀大学、立命館アジア太平洋大学、東京大学の教員、JICA職員、久米島町関係者など十数名がパラオを訪問。



写真2 パラオ調査参加者 前列右から2人目が筆者

ウィップス大統領と語るパラオの未来

大統領官邸にてウィップス大統領と面談。パラオの将来や産業振興の中心に海洋深層水を据えたい等の、率直で前向きな意見交換がなされました。



写真3 ウィップス大統領と中村久米島副町長

その後、大統領が経営するスーパーマーケットを見学。流通や物流の課題を直に感じる場面となりました。食料自給率が低く、船便で生鮮食品を輸入するため、鮮度が落ち、コストもかかるということでした。海洋深層水を活用し、食料自給率改善を目指したいというお話でした。

Dowas News 2025 Vol.28 No.1

パラオに息づく希望 ― 海洋深層水と未来を紡ぐ旅

海洋深層水利用学会 事務局長 今田千秋



写真4 大統領経営のスーパーマーケット見学



写真5 変色したレタス。3週間の船便で届くアメリカ産

Dowas News 2025 Vol.28 No.1

パラオに息づく希望 ― 海洋深層水と未来を紡ぐ旅

海洋深層水利用学会 事務局長 今田千秋



写真6 冷凍ミンチ肉。ソーセージのようなパッケージ

海洋環境調査

午後はパラオの海岸線に沿って生物調査を実施。野生の牡蠣、海藻、水質、沿岸植物を調査しました。自生する牡蠣は日本で流通する牡蠣より一回り小さく、種類も異なるように見えました。

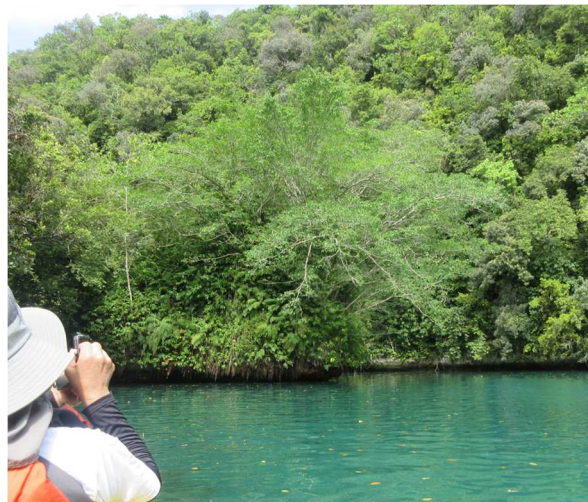


写真7 沿岸の生物調査風景

Dowas News 2025 Vol.28 No.1

パラオに息づく希望 ― 海洋深層水と未来を紡ぐ旅

海洋深層水利用学会 事務局長 今田千秋



写真8 野生の牡蠣

海洋深層水取水候補地 マルキョク州

海洋深層水の取水候補地・マルキョク州でポロイ州知事と会談。地域レベルでの協力の重要性を再確認しました。



写真9 ポロイ州知事との面談

Dowas News 2025 Vol.28 No.1

パラオに息づく希望 ― 海洋深層水と未来を紡ぐ旅

海洋深層水利用学会 事務局長 今田千秋

午後は、台湾テクニカルミッションファームを訪問。様々な熱帯の果物や野菜などが栽培されていますが、それだけではなく、人材育成、循環型農業、環境負荷の軽減、学校での食育、アグリツーリズム等、多角的な活動をしています。



写真 10 台湾テクニカルミッションファームでの視察

パラオ・コミュニティ・カレッジ訪問

28日は、パラオ唯一の高等教育機関である PCC（Palau Community College）を訪れ、副学長クリス・キタロン氏と面談。日本の南洋庁が起源のこの学び舎では、自然科学から観光まで幅広い分野を網羅しており、日本語教育や大学間連携も積極的に行われています。微生物の研究室、プランクトンのような藻類の培養室などを見学しました。

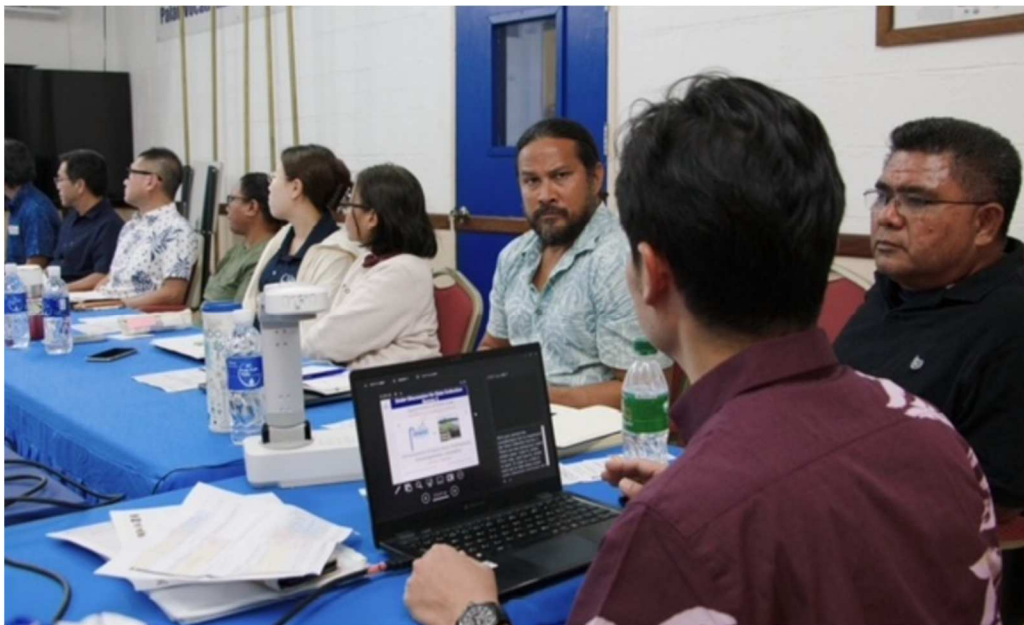


写真 11 PCC のクリス副学長と面談するパラオ調査参加者



写真 12 学内実験室の視察風景

Dowas News 2025 Vol.28 No.1

パラオに息づく希望 ― 海洋深層水と未来を紡ぐ旅

海洋深層水利用学会 事務局長 今田千秋

地ビールと地域産業の息吹

訪問の締めくくりには、パラオ唯一のクラフトビール醸造所「レッド・ルースター」を訪問し、観光と産業の接点を感じました。酵母に海洋深層水を少量加えると発酵が促進されることや、日本には海洋深層水を使った地ビールがあることを紹介すると、工場の方はとても興味を持っていました。また海洋深層水由来の酵母の活用にも関心をもっているようでした。現在はビールだけではなく、将来ワイン生産等も行ってみたいということでした。



写真 13 レッド・ルースタービールの醸造所内部

今回の訪問では、地元の方々が海洋深層水にとっても期待していること、そして、海洋深層水の産業利用に前向きであることが印象的でした。日本で培った海洋深層水の知見がパラオの発展の一助になると嬉しいと感じました。

パラオへのアクセス情報（2025 年 2 月現在）

現在、日本からの直行便は休止中。筆者は今回、グアム経由のルートを利用しました。

- **グアム経由（ユナイテッド航空）**：成田、中部、関西、福岡などからグアムへ飛び、そこからパラオへ。乗継含め所要時間は約 7～13 時間。
- **台北経由（チャイナエアライン）**：成田から台北を経由しパラオへ。所要時間は 8～12 時間、宿泊が必要な場合も。

直行便の再開が待ち望まれますが、それでもなお、あの美しい海と出会える価値は、旅の労を超えてなお余りあるものでした。